



人をつなぎ、地域の拠点をつくる 「途上国と日本の学びあい」によるまちづくり

奥井 利幸さん 野毛坂グローバル代表
Toshiyuki Okui

「日本の地域が抱える課題と途上国の地域の課題には共通点が多く、相互の学び合いが可能だ」と語る奥井さんは、青年海外協力隊やJICA専門家としての経験を日本のまちづくりに活かしている。その理念は「誰一人取り残さないまちづくり」だ。

住民一人ひとりが 力をつけて地域をつくる

2016年にまちづくり団体「野毛坂グローバル」を立ち上げた奥井さん。20年間、国際協力の現場で社会的弱者の支援をしながら、社会的弱者というのは実は社会が作っていると感じていたという。「弱者を生まない地域づくりに関わってみたいとの思いを胸に、地域の自治会活動をしながら、途上国との学び合いを実践する国際協力にも力を入れています」

奥井さんはJICAの専門家時代、「外の人」「つなぐ人」「広げる人」の役割を担いながら途上国のコミュニティづくりを支援してきた。日本では「土地の人」

としてコミュニティづくりに参加したかったという。「当事者自ら行動することで社会が変わっていく『エンパワメント』によるまちづくりを目指しています。例えば若者に対して『手伝ってください』というのではなく、彼らが自由に意見を言い活躍することで社会を作っていく、それを応援したいのです」と語る。

いま日本では、住民主導のまちづくりが注目されているが、さまざまな法律や条例上の制限があるため、住民の自由な発想が阻害されることもある。一方、途上国は制度が整っておらず、住民たちは自らの発想でまちをつくっていくしかない。

「日本と途上国は、相互に学び合える関係だ」というのが奥井さんの持論だ。

途上国と日本の 地域の学び合い

若いころから海外に憧れ、25歳のときに仕事を辞めて青年海外協力隊に参加し、タイの学校で学生や教員らにコンピュータ技術の指導を行った。

「当時の私はタイ人のいい加減さにカリカリしていました。期限を守らなくて





タイの市長ら対象の高齢者研修を日本で実施 (JICA横浜)



タイのタマサート大学レク准教授へ日本の高齢者ケアを説明 (老人福祉センター野毛山荘)



イベントでは多世代からなる実行委員会を組織化して実施 (グローバルフェスタ)

も『大丈夫、問題ないよ』と平気な顔をする。でもよく考えれば、締め切りに遅れたところでどういう実害があるのかという話。人に対して寛容になった方が、互いに気持ちよく仕事ができることに気づいたのです」

それ以来、「緩くいきましょう!」が口癖になったという奥井さん。今でも隊員時代の同僚たちとはつながっていて、タイに行けば一緒に食事をする仲だ。

2017年からタイ内務省、タマサート大学、「野毛坂グローバル」の共催でタイの首長らを日本に招き、両国の高齢者福祉を学び合う研修を開始。これまで述べ800人を受け入れ、県内の施設見学や地域コミュニティによる支援の講義などを行った。

日本では、介護保険制度によって高齢者を社会全体で支えるシステムが定着してきたが、一方でお年寄りや家族や地域から離れて孤立している。タイでは公的支援の割合は低く、家族や親せきの助け合いによる在宅介護が基本だ。「途上国の人からはよく『子どもは親の面倒を見ないのですか』と質問されます。見ないのではなく社会全体で高齢

者を支えていると答えながらも、高齢になってから亡くなると家族葬になるケースが多く、お葬式の参列者は少ない。介護ヘルパーさんやお葬式には行けない規則なので来ない。果たしてこれが求められる社会なのかと。まさにタイと日本の学び合いになっています」

柔軟な発想で人をつなげる

奥井さんは自分の強みについて「専門がないこと」と話す。例えば子どもの課題を考えると、専門がある人はその分野内で解決策を考え、住民は「対象」となることが多い。しかし、専門がない人はこだわりもなく、全体を冷静に見た上で必要な専門職を「活用」することができるという。

「先日、横浜市西区羽沢西部自治会の役員や行政の人たちと『インクルーシブ防災』をテーマに勉強会を開きました。障害者や高齢者など社会的弱者の避難について課題があることから、私の知り合いの国連職員を招き、国連が進めるインクルーシブ政策と地域の実情について意見交換をしました。海外とつ

奥井 利幸さん プロフィール

大阪府出身。コンピュータエンジニアとして5年ほど勤めた企業を退職し、1987年から89年まで青年海外協力隊に参加。タイでコンピュータ技術の指導を行う。帰国後は短期隊員、企業勤務を経てJICAのボランティア調整員や専門家として再び海外へ。タイやミャンマーなどで約20年間、社会的弱者支援やコミュニティ開発などのプロジェクトに関わる。2016年、途上国での経験を活かしたまちづくり団体「野毛坂グローバル」を設立。

なぐことで地域に新たな視点ができることを期待したのです」

人との縁を大切に、人と人をつなげることを意識している奥井さん。つなげた先に自分は必要ないと考える。「この人とこの人がつなげると面白いな、と思えばつなげます。それで面白くなればいいし、面白くなくてもいいのです」

「野毛坂グローバル」による途上国との学び合いや、奥井さんがつないでくれる外部講師との勉強会などを通して、地域の人々が力をつけ、エンパワメントによるまちづくりを実現していく日はそう遠くはなさそうだ。

奥井さんへのエール!

横浜市西区羽沢西部自治会会長
米岡 美智枝さん

NPO 法人横浜コミュニティデザイン・ラボ
鈴木 ゆりりさん



広い視野とネットワークで地域の発展に貢献

[米岡さん] 奥井さんは地域のコミュニティに対して理念をもっていらして、私たちより広い視野で地域を見ることができるので、自治会にとってもすごく貴重な存在です。

[鈴木さん] 世代は関係なく同じ目線に立ち、敬意をもって接して下さるので、若者のモチベーションが上がります。幅広いネットワークをお持ちで、まさに中間支援組織の役割を果たしていると思います。